

まちづくりへの提言

1. 「武蔵野市交通バリアフリー基本構想」の事業実施期間前期の成果

「武蔵野市交通バリアフリー基本構想」に位置づけられた事業計画について、各事業者からこれまで実施された事業に関する報告を受け、現地を確認し、意見交換を経て、評価を行いました。今後の具体化や一層の推進が求められる部分もありますが、おおむね、順調に進展しているといえます。ただし、利用者の利用実態の把握に努め、より利用しやすい構造を追及していくことが不可欠です。

2. 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」(バリアフリー新法) とのかかわり

平成18年12月20日から「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」(バリアフリー新法)が施行されました。この法律により、バリアフリーをめざす法律の適用範囲がより拡大され、駅を中心とした「点」もしくは「線」のバリアフリーから、生活と関連する施設をつないだ「面」の整備を図る内容へと移行されています。ただし、この法律の施行により、「武蔵野市交通バリアフリー基本構想」が大幅に見直される必要はなく、構想に基づく事業がより幅広く、より確実に実施されることに拍車がかかれ、力を得たと考え、実施方法について再検討するべきだと考えます。

3. ユニバーサルデザインによるまちづくりに向けて

従来の「バリアフリー」は、特定の身体条件を持つ人々の直面する障害(バリア)を取り除くという考え方や方法と受けとめられがちでした。そうした障害を取り除くことはもちろん必要なことで、「武蔵野市交通バリアフリー基本構想」も、そうした障害の除去を目的としています。しかし、「障害者=特定の人」のため、という一般の対応の仕方がかえって差別感を抱かせ、心の中に障害(バリア)を生んでしまっているという矛盾も指摘されるようになってきています。また、直面する障害を取り除こうとすると、既存のモノや環境に手を加えて改良することになり、とすると、とってつけたようなギクシャクとした仕上がりとなって、景観を損ねたり、高価な改造費用が必要となるなど、さらなる問題すら生じかねません。

「バリアフリー」のもつこのような限界を克服するために、最近では、「ユニバーサルデザイン」という考え方が提唱されています。モノや環境を作ろうとする際、あらかじめ、できるだけ多様な人々の多様な使用状況に応じていけるよう計画、設計して行こうとする考え方と方法です。

人はそれぞれ身体状況も異なり、また、生きている間にも身体状況は変化し、事故や病気によっても身体の動きが異なります。心理面でも同様、人それぞれ実に多様な条件の中で生きています。このような観点から身の周りを見回してみると、人間によって作り出されたモノや環境は、まだまだ、そうした人間の多様性に対する配慮に欠けていると言わざるをえません。

私たちは、一人では生きていけず、多様な人々と地域の中で暮らしているのですから、まちづくりは、本来、できるだけ多様な人々の要求に応じていける共生の環境づくりであるべきです。それが、まさに「ユニバーサルデザイン」によるまちづくりなのです。

今後、私たちのまちづくりは、点や線としての移動障害除去(バリアフリー)に終るのではなく、さらに市内全域の生活環境を対象として、周辺地域との連携を図りながら、多様な市民や専門家、事業者等の参画のもと、ユニバーサルデザインによるまちづくりに向けて取り組んでいただきたいと思います。

武蔵野市交通バリアフリー基本構想の評価及び提言 (概要版)

基本構想のあらまし

「武蔵野市交通バリアフリー基本構想」は、平成12年度に制定された「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」(通称 交通バリアフリー法)に基づき、高齢の方や障害のある方などが、公共交通機関を利用して移動する際の利便性や安全性を高めるために、市町村の主導で定めるものです。鉄道やバス車両等のバリアフリー化の推進、及び駅などの旅客施設を中心とした徒歩圏の区域を「重点整備地区」として設定し、その区域内において平成22年度までに重点的かつ優先的に、駅や周辺の道路、信号機等のバリアフリー化を進めることを目的としています。

3 駅周辺地区の重点的なバリアフリーの推進

武蔵野市では、市内3駅を中心とした駅周辺の区域について、鉄道やバスなどの公共交通事業者、東京都や武蔵野市などの道路管理者、警察などの各事業者が、基本構想に基づき実施計画を策定し、具体的な内容及びスケジュールのもとで、事業を実施・展開しております。

進捗状況の把握及び評価

平成22年度の目標年次に対し、基本構想では、事業実施期間を平成15～18年度までの前期と、平成19年～22年度までの後期に分けて位置づけております。

「武蔵野市交通バリアフリー事業計画実施推進委員会」を設置し、目標年次の前半が終了する平成18年度において、前期事業の進捗状況の把握と評価を行いました。その内容は、年次計画に従って事業が実施されているかを判断・評価し、市長に報告・提言することを目的にいたしました。市長は、報告・提言された内容を吟味し、全ての人の移動等が円滑に行われるまちづくりを遅滞なく推進するよう努めていきます。

武蔵野市交通バリアフリー事業計画実施推進委員会 (委員長、副委員長)

| 区分 | 氏名 | 所属 |
|-------------|---------|----------------------|
| 学識経験者 | 清水 忠 男 | 千葉大学工学部教授 |
| | 入 江 正 之 | 早稲田大学理工学部教授 |
| 関係団体代表 | 榎 本 和 代 | 視覚障害者福祉協会会長 |
| | 伊 藤 昭 雄 | 障害者福祉協会会長 |
| | 関 根 咲 子 | 老人クラブ連合会会長 |
| NPO(実践活動団体) | 横 山 康 子 | 子どもおとなも楽しむ生活プロジェクト代表 |
| 福祉活動者 | 横 山 正 子 | 介護福祉士、ライフケア工房・武蔵野 |
| 市民 | 後 藤 信 義 | 公募市民 |
| 行政関係 | 檜 山 啓 示 | 福祉保健部長 |
| | 井 上 良 一 | 都市整備部長 |

評価の手順・経緯

第1回 実施推進委員会（平成18年3月）

- 各事業者から、事業計画の進捗状況について説明。
- 委員との意見交換を実施。

<参加した特定事業者>

JR 東日本旅客鉄道、西武鉄道、京王電鉄、京王電鉄バス、西武バス、関東バス、小田急バス、東京都、武蔵野市、警視庁



第2回 実施推進委員会（平成18年5月）

- 現地視察
各事業者から報告された事業の進捗状況について現地確認。

<視察ルート>

武蔵野商工会館 本町新道 サンロード 京王吉祥寺駅 JR 吉祥寺駅（電車利用） JR 三鷹駅（バス利用） 武蔵野市役所

- 委員全員による意見交換。



第3回 実施推進委員会（平成18年10月）

- 事務局より特定事業の進捗状況及び委員等からの意見（評価）について説明
- 議論（事業者出席のもと、委員との意見交換）



第4回 実施推進委員会（平成19年2月）

- 評価及び提言（案）のとりまとめ

市長へ提言（平成19年3月）

評価

1. 利用者の利用実態を把握して事業計画に反映させることの必要性

5月に実施した現地視察で、車椅子を利用する者が券売機を利用しましたが、券売機の高さや角度が車椅子利用者には利用しにくく、券売機下の足回りスペースが十分ではありませんでした。また、視覚障害者にとっても、券売機の画面上を操作するタッチパネル方式では利用しにくい構造であると感じました。こうした問題は、個々の鉄道駅で解決できる問題ではなく、各事業者の計画や開発担当、実際に製作するメーカーが、利用実態の把握に努め、より利用しやすい構造を追及していくことが不可欠であると思われます。

2. 異なる事業者間の連携の必要性

吉祥寺駅の南北をつなぐ自由通路に設置してある視覚障害者誘導ブロックが、事業者間の境界部分で途切れている部分がありました。また、色も統一されていません。事業者間での調整が不十分で、連携して整備にあたる必要性があります。こうした異なる事業者間の連携の必要性は、他にもいろいろ見受けられます。

3. 維持・管理の重要性

歩道が多面的な観点から改良されて安全性や利便性が向上したとしても、そこに自転車や自動二輪車が放置されてしまうと、通行の妨げとなります。誘導ブロックを頼りに歩行する視覚障害者にとっては、安全が脅かされることにもなりかねません。ハード面の整備も、維持・管理というソフト面の裏付けがあって機能します。施設の維持・管理などのソフト面の充実が求められます。



4. 社員・職員に対する教育の必要性

バリアフリーを推進するうえで、ハード面だけの解決は不可能であり、時として、乗務員のちょっとした声かけや行動が大きな助けとなります。現地視察では、鉄道やバスにおいて、車椅子利用者に対する誘導に不十分な部分が見受けられました。このような事は、社員教育を徹底することにより、改善できます。本委員会の意見交換においても、バスや鉄道事業者から、社員教育の充実を掲げており、ユニークな取り組みも紹介されました。今後も、不断の社員教育を一層推進していただきたいと考えます。



5. 心のバリアフリーを啓蒙することの必要性

バリアフリーは、ハード面の整備や事業者の努力のみでは解決できません。そこに住む住民や施設を利用する人々が、バリアフリーの意義を理解し、行動してこそ、実現されます。バリアフリーに関する関心を高め、その意義や手法を理解し、「心のバリアフリー」を啓蒙していくことが求められます。